

会議名 平成26年度ニセコ町観光審議会

| | | |
|--|------|--------------------------|
| 開催日 平成27年3月24日 | 会議時間 | 開会 PM 6:00 閉会 PM 8:00 |
| 会議場所 ニセコ町役場 第2会議室 | 記録者 | 商工観光課観光戦略推進係 係長 齊藤 徹 |
| 出席者 委員：鎌田克己委員長、大野幸一委員、工藤達人委員、高林永次委員、下田伸一委員、 菊井隆則委員、千葉泰宣委員、牧野雅之委員、渡辺浩樹委員、徳地利和委員 (欠席者：岩田光代副委員長、高井啓委員、三浦裕一委員、松本恵子委員 役場：片山町長、前原商工観光課長、淵野観光圏推進係長、 ポール観光戦略推進掛主査、齊藤観光戦略推進係長 | | |

会議日程

- 1 開会
- 2 片山町長あいさつ
- 3 委員委嘱
- 4 会長・副会長の互選
互選により委員長を鎌田克己氏、副委員長を岩田光代氏に決定
- 5 議題
 - ・近年のニセコ町観光客入込状況と現状・課題および、
平成27年度ニセコ町観光振興政策・予算の概要 【資料1】
 - ・ニセコ観光圏の実施状況について 【資料2】

会議内容

今回は諮問事項が無いことから、事務局から、「近年のニセコ町観光客入込状況と現状・課題および、平成27年度ニセコ町観光振興政策・予算の概要」、「ニセコ観光圏の実施状況について」、資料に基づき説明を行った後、鎌田会長の進行で意見交換を行った。

【観光圏】

高林委員) 観光圏の支援は、H28からも新しい事業の申請は可能なのか。

事務局) 観光圏の事業は5年間あるので、その中であれば可能。

渡辺委員) 受け入れ態勢強化とは、具体的はなにか。

事務局) まずやるべきことは先頭に立つべき観光協会の体制を強化する。新年度から新たに事務局長を雇用し人員をプラスするほか、綺羅街道の事務所を閉鎖し、JRニセコ駅を今までは切符売りだけであったのを、観光案内所として常駐し、まちのランドマークとしての役割を強化すると同時に、道の駅をニセコエリア観光の拠点として磨いていく。また多言語化についても研修やスキルのあるスタッフの雇用などで対応していきたい。

渡辺委員) 倶知安駅では、スタッフが改札に2名ほど出て、直接「〇〇方面のバスの方はこちらへ」というように直接案内している。

町長) 窓口に座っていないで、カウンターの外へ出るということが大切。

鎌田委員長) ニセコリゾート観光協会でもすぐに持ち帰って改善の提案をさせてもらう。

【道の駅】

大野委員) 重点道の駅に選ばれたということだが、具体的にどのような支援があるのか。

事務局) 具体的には示されているわけではないが、今後地元から提案していく中で、優先的に支援していただくことになっている。

町長) いままでは道の駅に対する補助制度はなかった。地方創生がらみで道の駅はまちづくり

の核としての役割が期待されており、今後ニセコビュープラザの改修や駐車場拡幅事業などに大きな期待を寄せているところ。

【人材・住宅不足】

町長) 観光産業など人材確保も重要であるが、とにかくニセコはまた住宅不足が深刻で、一軒家の空き家も探しているところである。イメージはあと100戸位は必要と考えられる。公営住宅も400戸あるが、3LDKに高齢者が一人で住んでいるなどのミスマッチ世帯も多く、そのような方々を整理する必要があることも考慮しつつ、行政として50戸程度は用意しなければならない。あとは民間の活用によっての整備を検討したいが、できれば町内事業者が整備できると、町内にお金が回るので理想と考えている。

高林委員) 人を雇いたくても、必要なスキルを持った人材が不足しており、このエリアの人材の需給バランスが崩れている。

町長) 例えば八ヶ岳では夏だけで、冬は東京という構造になっており、ニセコとは季節が逆になっているため、人材確保を連携できる仕組みがあればいい。しかし、とにかく住宅不足を解消しなければならない。従来の公営住宅の仕組みではなく、家賃収入で維持できる仕組みを検討しなければならない。

千葉委員) 賃貸住宅の問い合わせもすごく多い。

【外国人観光客】

千葉委員) 外国人観光客が今はたくさん来ているが、災害や流行病などがあれば一気にいなくなる。国内の観光客をどうするかが今こそ大切になる。ヒラフ地区の報道などがニセコのイメージとして強く出すぎているため、外国人が多すぎて国内の人が来づらいという声もある。

事務局) 近年、エデュバケーション(バケーション+エデュケーション)という言葉があり、ただ旅行するというだけではなく“学び”の要素も注目されている。ニセコではHISでは約160名のシーズンリースクールに参加しており、中には42泊した人もおり、それは日本人である。今後、大きなコンテンツとして期待できる。

事務局) 下期の集計はまだでていないが、ニセコ町においてはまだ日本人がたくさん来ている。外国人の話題が逆に引っ張っているともいえる部分がある。

町長) ニセコの夏のイメージがまだまだ弱く、さらなる発信が必要。

徳地委員) 夏は日本人が多いが、2月における宿泊客は約8割が外国人だったため、オペレーションにかなり苦戦した面もあったため、今後検討が必要。

渡辺委員) 外国人観光客の前年比は1月160%、2月は190%。しかし、日本人は減ったわけではなく、日本人の方が多き月が多い。ベースの国内が大切で、外国人は高くても来るといって値段を上げるのはどうかと思う部分はある。今シーズンについては臨時のスタッフが英語を話せたので、かなり助かった。今後もスタッフのトレーニングはとても重要。

また、冬も黙って来るわけではないので、特に国内の冬のPRも強化すべき。パウダースノーもいつもあるわけではなく、それだのみでは危険である。

【北海道新幹線】

高林委員) 来年から北海道新幹線がスタートする。北関東や東北圏の人の来道者が期待できるが、2次交通が課題である。バス事業者としてどうしていくか、中央バスグループとも連携しながら検討していかなければならない。

下田委員) 修学旅行で新幹線を使用したいかという点では、逆に北海道から出ていくパターンが増加する恐れがあり、楽観視できない。

【観光振興計画・ニセコの将来像】

千葉委員) 観光振興計画の中では弱みや強みの分析がされているが、これをだれが実行して解決していくのかがしっくりしていないと意味がない。

事務局) 観光振興計画の策定に当たっては、観光戦略会議で検討されたもので、現在も開催されている戦略会議において戦略を立てている。

町長) 現在、観光圏の事業で経済波及効果について分析しており、この結果をもとに政策を立てていく。しかし、政策実施には財源が重要だが、地方創生とうたわれている中、地方への金が圧縮されている現実があり、リフト税や環境税など独自の財源を検討したい。

下田委員) ヒラフ・山田エリアが目立っているが、そこに住みたい人は減っており、ニセコ町に住みたい人が増えている。ニセコはいま、その時点での現象で右往左往しており、たとえば50年後の設計図が見えていない。海外のスノーリゾート地のウイスラーやツェルマットはギュッとエリアが凝縮しているため、2次交通の問題がない。ニセコは点在してしまっているため問題が発生する。人材にしても、季節雇用で入ってもこの地で結婚・子供までつながらず、ビジョンが描けないが、ヒラフエリアのコンドミニアムの清掃のバイトで時給1000円を超えているのは脅威とも感じる。そのような一過性のものではなく未来を見せられるような設計図が必要。

千葉委員) 将来を見据えて観光協会を民営化したが、官と民のやることは異なる。株式会社化した公的に事業者が集めて何かやろうという一体感がなくなってしまった。

また、準都市計画などの規制をかけるのはいいが、まずゾーニングをかけてこのエリアをどうしたいのか、規制ありきではなく、どうぞここではどんどんやってくれというのが必要だったのではないか。

町長) 具体的なゾーニングは地権者がまばらなためハードルが高かった。たしかに作れば将来像はかなり見えてくる。

だれがやっていくかという点では観光局が理想だが、温度差があり進まないため、ニセコ町で事務局をやっている観光圏で進めて変えていきたい。

千葉委員) ニセコはまだ恵まれている方かもしれない。困ったときには棚ボタ的に助かっている部分もある。小樽は運河を残す議論について命がけでやっており、ニセコは危機感が足りないのでは。

町長) モイワのタワーは分譲したら所有者がバラバラになり、どうにもなくなるためホテルにしてほしいという要望や、東山についても環境に配慮した取り組みを行っている業者への買収など、町から声を出さなければ実現しなかったこともあり、町としても動いている。

【観光審議会】

下田委員) 審議会ではとてもいい話し合いができ、年に1回程度の開催では、少ないと考える。

事務局) 年に3回(夏の終わりの9月、予算編成前の11月、予算編成後の3月)開催を目指す。